

寒川のシェルター

東日本大震災の被災地に取り残されたり、一時的に飼えなくなった犬や猫を保護してきた寒川町小動のシェルターが、4月にも福岡県に移転する。これまで約千匹を保護し、元の

飼い主や里親に届けてきたが、まだ150匹余りが残されている。長距離移動は高齢の犬たちの負担になるため、このまま近くで暮らせるよう里親を探している。(塩山 麻美)

「8月14日保護、双葉町下条交差点」。犬や猫のケージには、保護した日付や場所が記されている。長い間取り残されたため、人を恐れたり、凶暴化したりした犬もいる。「突然家族がいなくなり、何も食べられない日が続けば、犬だって人間不信になる」。シェルターを運営する一般社団法人「UKC JAPAN」の

被災ペット 里親に

大震災 3年

理事長、細康徳さん(52)は言う。それでも、ボランティアと手をかけて世話する中、多くが穏やかさを取り戻していった。

2011年3月11日。細さんは、法人本部のある京都にいた。津波の映像を目にし、とつさに考えた。「人の食べ物がままならないの

福岡移転控え あす見学会



シェルターを運営するUKC JAPAN理事長の細さん。現在、1週間で延べ100人ほど訪れるボランティアとともに、餌の用意や散歩などの世話をしている
—寒川町小動

1に290頭、里親に40頭を届けた。被災地以外の犬も加わり、まだ犬112頭、猫47匹が残る。餌代や医療費、家賃、光熱費などで維持には毎月約130万円掛かる。街頭募金やバザーで集めた資金では足りず、私費でやりくりしてきた。免除されていたごみ代も4月以降は掛かり、毎月10ト出すと20万円に上る。そこで、もっと広く自然があり、維持費も安い場所を探し、福岡県への移転が決まった。

「3年間、ぎりぎりの資

に、ペットの食料まで欲しいと言えないはず」。翌12日、車3台にドッグフードなどを積み、被災地へ向けて出発。宮城県気仙沼市や石巻市などの避難所を回り、物資を配った。

福岡県南相馬市にきた時だった。取り残された猫を細さんが保護する姿がテレビで報じられた。避難区域などの住人から「うちも預かってほしい」と、次々と

連絡が舞い込んだ。そこで、かつて細さんが設立したブリーダー施設の支部で、最も被災地に近かった寒川を拠点にした。警戒区域が設定され、立ち入り禁止となる4月22日まで福島と寒川を往復する生活を毎日続けた。その後も何度も福島に通った。

「正直、初めは動物ごころじゃないと思った」と細さん。多くの遺体を目の当たりにし、涙が止まらなかつた。車に掲げた「ドッグレスキュー」のたすきを外そうかとも思った。そんな時、一人の自衛隊員が敬礼して言った。「私たちは人を全力で助けます。だから、動物をよろしくお願いします」。その言葉で、迷いが吹っ切れた。

千匹余り保護したうち、元の飼い主に180頭、一PAN(090)(2911)7239。問い合わせはUKC JAPAN(090)(2911)7239。